

がんの放射線治療後の免疫力について



女優の岡江久美子さんが新型コロナウイルス肺炎で亡く
なられました。心よりお悔やみ申し上げます。

この件に関して、ニュースやワイドショーなど多くのTV番組
その他で「乳がん手術とその後の放射線治療により免疫力が
低下していたのが重症化した原因ではないか」といった報道
がなされました。今まさに放射線治療を受けておられる患者の
方々、これから放射線治療を受ける予定の方々に大きな不安と
動揺を与えかねない報道であると受け止め、ここにまずがん
放射線治療を専門とする学会として、

**「早期乳がん手術後に行われる放射線治療は、
体への侵襲が少なく、免疫機能の低下はほとんど
ありません。」**

と表明いたします。

一般的には、初期の乳がんの手術後の放射線治療で
免疫力が大きく下がることはまずありません。免疫を担う白血球
などは、骨髄で作られますが、乳がんの放射線治療で照射さ
れる骨髄はわずかであり免疫力の低下は考えにくいからです。
NHKの報道によると、日本乳癌学会の井本滋理事長も
「放射線治療を受けた患者で、まれに肺が部分的に炎症を
起こすことや、免疫をつかさどる白血球が減少することもあるが、
新型コロナウイルスによって重症化する原因になるほど、免疫
力が下がるとは考えにくい。同様の治療を受ける患者さんに
ついては感染予防を徹底する必要はあるが、過剰な不安は
抱かないでほしい」とのコメントを出されています。

(<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200423/k10012401871000.html>)

もちろん、予防的に広い範囲で放射線を照射した結果、
骨髄の働きが悪くなり、白血球が減って、免疫力が一時的に
低下するケースがないわけではありません。とくに、放射線と
抗がん剤を同時に組み合わせる化学放射線療法では、その
影響も無視できません。ただ、多くの放射線治療では通院で
治療が終わり、免疫力の低下はほとんどみられません。一方で
手術のあとに放射線治療を行うことで、乳がんの再発の
リスクが減ることは科学的に証明されています。

岡江さんの報道で、不安を感じる患者様や市民の方々も
おられると思われませんが、放射線治療専門医が適切に対応
すれば、まず問題ないことをご理解頂き、安心して治療を受け
て頂きたいと思います。

放射線治療は手術、薬物療法と並ぶとても大切ながん治
療法です。日本では年間約30万人の方が受けています。早期
がんから進行がんまで、体の調子の良い方はもちろん、具合の
悪い方、他の病気があったり、年齢的に他の治療が難しい方
まで、さまざまな種類のがんに対して幅広く放射線治療が行
われています。また、手術や薬物療法と組み合わせて行うこと
もあります。最近では科学技術の進歩により放射線治療は
急速に進歩し、高精度放射線治療と呼ばれるようになりました。
治療の効果が高まり、さまざまながんで治療成績が向上して
きました。そして一方で、治療による副作用、後遺症など患者
様の苦痛はますます少なくなってきました。

日本では放射線というと怖い、危ないというイメージが先行し
ますが、その放射線をがん集中させて上手に使っているのが
放射線治療です。本来、からだへの負担が少ない治療法で、
がんを治療しながらがんのまわりの正常組織の機能や形態を
温存できるのが放射線治療の特長です。がんを治すことから、
がんによる苦痛を緩和して、質の高い生活を長く続ける目的
まで、今では多くの方々が外来での通院治療を受けられるよ
うになりました。**一般的な放射線治療では、からだの
免疫力が大きく低下するようなことはほとんど
ありません。**

日本放射線腫瘍学会はこれからもがん患者の方々へ最
先端の放射線治療が提供されるよう努めてまいります。まだ
まだ人数は少ないですが、患者の皆様には放射線治療を
専門とする医師、診療放射線技師、医学物理士、看護師
などが協力して、一人一人の放射線治療が安全かつ確実に
進められるよう支えています。私たちはこれからも常に患者様に
寄り添い、そしてがん診療に携わるすべての医療者と共に
歩み続けます。

令和2年4月25日



公益社団法人 日本放射線腫瘍学会